



Title	現代標準アラビア語の地域的特徴に関する研究 : エジプト・シリア・チュニジアの新聞を比較して
Author(s)	上原, 唱
Citation	アラブ・イスラム研究. 2006, 5, p. 31-42
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105871
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

現代標準アラビア語の地域的特徴に関する研究¹⁾

—— エジプト・シリア・チュニジアの新聞を比較して ——

上 原 唱*

Regional Characteristics of Modern Standard Arabic: Based on the Arabic Newspaper Texts in Egypt, Syria and Tunisia

Modern Standard Arabic (hereafter MSA) and its grammar are based on the language of Qur'ān. Due to this character, MSA is the official and national language of many countries in the Arab world.

Therefore, in every country throughout the Arab world, MSA is used daily in the media (newspaper, radio, television and so on) and in the official documents. At the same time, however, the Arabic language is a living language that is used by millions of people. Here, a question arises if the language in such a vast area and among many peoples shows regional variations and to what degree.

In addition, the Arabic language is affected by many factors such as Diglossia (the linguistic situation, in which a literary language coexists with a colloquial within one single community), and the colonial policy of western countries and so on. Through the establishment of the Academies (for the purpose of solving linguistic problem) and various publications, the Arab countries tried to “revive” the Arabic language. But the situations are so different from country to country that the linguistic recovery has never been done uniformly.

Taking these factors into consideration, this paper tries to investigate the Arabic language in the newspapers of three Arab countries, Egypt, Syria, and Tunisia, and an attempt is made to show the existence of the regional characteristics on the basis of lexicon, morphology, and syntax.

1. はじめに

アラビア語は、南方系北アラビア語に属す、セム系言語の一つであり、文法学の発展とともに高度に規範化された言語である。そして、アラブ世界では公用語として採用されているため、新聞や公的な場面などで広く用いられている。しかしその

* 大阪外国語大学大学院 言語社会研究科地域言語社会専攻 博士前期課程2年

1) 本稿は2004年1月に提出した卒業論文と、関西アラブ研究会の第15回研究会（2004年12月25日、大阪外国語大学）での研究発表をまとめたものである。各先生方のご指導と的確なコメントに感謝します。

アラビア語も、二言語併用状態 (ダイグロシア)²⁾や、西洋諸国の植民地政策等、各国ごとに様々な変容を受けてきた。更に、言語復興の方策や状況も国ごとに異なっていた。このため、書き言葉としての現代標準アラビア語には、何らかの地域的差異が存在するのではないかと考えられる。本稿では語彙、形態、統語面から³⁾現代標準アラビア語の地域的特徴を分析し、地域的差異の存在の可能性を示すことを目的とする。

2. 先行研究について

アラビア語は、口語は地域ごとに大きく異なっているが、書き言葉である現代標準アラビア語は、本質的に古典アラビア語と同一の言語であり、アラビア語を話す世界においては均質的であるとされている⁴⁾。そのため現代標準アラビア語の地域的差異に関する研究は十分に行われてこなかったが、近年はコンピュータを伴った研究も幾つか行われてきている。その中でも Van Mol (2003) が、近年のものとしては代表的であろう。

この研究で著者はコンピュータを用いてラジオニュースのアラビア語を分析している。具体的にはサウジアラビア、エジプト、アルジェリアの3カ国を比較して、ラジオニュースにおける不変化詞 (ʾidā と ʾin, wa と fa, ʾaw と ʾam 等) の使用を、その出現頻度や出現状況について分析し、それらを基にして、アラビア語の地域差の存在について考察している。

しかし Van Mol (2003) では、一つの単語に対しての使用単語の地域差 (例えば「可能性」という意味を表す時にどの単語を用いるか) については十分な考察がなされていない。よって本稿では主に使用単語の違いに焦点を当ててコーパスを調査し、具体的な語彙の地域差を示すことを目的とする。

3. 現代標準アラビア語 (Modern Standard Arabic)

3.1. 現代標準アラビア語の定義

現代標準アラビア語とは、古典アラビア語をその基本においた、現在アラブ諸国で公用語として制定されている書き言葉アラビア語のことであり、主にメディア・公的な場面で使用されている言語である。

アラビア語は、イスラームの広がりとともに勢力を拡大し、10世紀には全盛期を迎えるが、レコンキスタや、15世紀から力を持ち始めたオスマントルコの影響等により、次第にその力を失った。しかしアラビア語は、アラブ諸国の国家形成の基本であるとされたため、各地で言語復興運動が起こった。この言語復興運動を通してアラビア語は公用語の地位を得てきたのである。

2) 集団の中で、同一言語の社会的に低位の変種と高位の変種が併存していて、場面によって明瞭に二つが使い分けられている、という言語現象 (真田他 (1992: 71))。

3) 榮谷 (1997); Ennaji, M. (1988); Stetkevych, J. (1970) 等を参考に、比較分野を設定した。

4) El-Ezabi (1967: 175) 等。

3.2. エジプト、シリア、チュニジアの状況と言語復興

3.2.1. アカデミー

ダマスカス (1918年)、カイロ (1932年)、イラク (1947年)、ヨルダン (1976年) に言語アカデミーが設立され、専門用語のアラビア語化等を中心に言語復興に大きく貢献した。これらのアカデミーは主に専門用語のアラビア語化等を通して語彙の拡大と統一を目指したが、アラブ地域で統一されたアカデミー (Pan-Arab academy of the Language) は設立されなかった。そのため、各アカデミーの活動の調整や専門用語の統一等は十分になされなかった⁵⁾。

3.2.2. エジプト

1798年、ナポレオンのエジプト占領により印刷機が伝播した。これは、同時代のムハンマド・アリーによるヨーロッパへの使節団派遣、教育機関の設立等と共に、言語復興に大きな発展をもたらした。1882~1922年にかけて、エジプトはイギリスの保護領となったが、1932年にはカイロ・アカデミー (Majma'u al-Luġati al-ʿArabiyyati (al-Qāhirah)) が設立され、アカデミーの活動を中心にさらに言語復興が進められた。

3.2.3. シリア

19世紀前半、教育機関や、印刷機の導入によって可能となった多くの雑誌発行等を通して、言語復興運動が進められた。1919年にはダマスカスアカデミーが設立されたが、第一次世界大戦後1940年代までは、フランスによって言論の自由を制限されたために、シリアからは多くの有能な学者たちがエジプトへ移っていたとされている⁶⁾。

3.2.4. チュニジア

1920年代から、教育言語のアラビア語化、小中学校でのアラビア語教育等を求め、言語復興運動が進められた。しかし1881~1956年まではフランスの保護領であったため、言語復興は思うように進まなかった。独立後は多くの教育機関や出版物を通して、アラビア語を復興させる努力がなされたが⁷⁾、未だにフランスの影響は根強く残っている。また、エジプト・シリアと異なりアカデミーの存在はない。

4. 方法論

地域的差異の検証はエジプト・シリア・チュニジアの新聞に実際に目を通し、手作業で行った。具体的には、同じ意味で用いられていると考えられる単語 (5節 語彙【1】では *ʾimkāniyah* と *ʾimkān*) を比較項目として設定し、それらの出現数を記録

5) Chejne (1969: 122). Van Mol (2003: 28).

6) Chejne (1969: 110).

7) Chejne (1969: 109).

する、という方法をとった。しかし本稿では時間的制約に加え、実験的なコーパスをもとに地域的差異の検証を行ったため、コーパスは非常に限定されたものとなった。具体的には、上記の3カ国の、1週間前後の新聞の第1面を対象にした。対象としたコーパスは Table-1 の通りである。

また、このように同時期のコーパスに限定したことは、類似したニュースを比較し、2節で述べたように具体的な使用単語の比較を行うためでもある。

次節からは、上記の方法で行った検証により明らかになった、地域的差異と思われる事象を示す。

〈Table-1: コーパス〉

国名 新聞名	対象時期・範囲	対象範囲 の語数
エジプト Al-ʿAhrām	2003/5/6, 5/7, 5/11, 5/12, 5/13, 5/14, 5/15 第1面	約 13,200語
シリア Al-Baʿṭ	2003/5/5, 5/6, 5/7, 5/8, 5/11, 5/12, 5/13, 5/14 第1面	約 16,900語
チュニジア Al-Ṣabāḥ	2003/5/6, 5/7, 5/8, 5/9, 5/10, 5/11, 5/13, 5/14, 5/15 第1面	約 10,500語

5. 語彙

この節では、地域差が見られる語彙についての検証結果を、品詞別に表にして示した。また、④ (Table-5) では「時に関連する表現」として、⑤ (Table-6) では「同じ語で、地域ごとに違う意味を表す語」として、地域的差異が確認できた事例をそれぞれ挙げている。

以下の全ての表における () 内の数字は、検証対象としたコーパスにおける発見数を示している。なお、用例はそれぞれに1例ずつ、資料として本稿末尾に示した。

〈Table-2: ① 名 詞〉

	チュニジア	エジプト	シリア
[1] 可能性	ʾimkāniyah (3)	ʾimkān (4)	ʾimkāniyah (4)
[2] 銀行	bank (4)	bank (3)	maṣrif (2)
[3] 協議	該当語 発見できず	muṣāwarah (3)	taṣāwur (2)
[4] 石油	naft (3)	bitrūl (2)	naft (5)
[5] 年 ⁶⁾	sanah (5)	sanah (2)	sanah (0)
	sanawāt (3)	sanawāt (5)	sanawāt (1)
	ʿām (4)	ʿām (22)	ʿām (13)
	ʾaʿwām (0)	ʾaʿwām (0)	ʾaʿwām (0)
[6] 農業	filāḥah (4)	zirāʿah (5)	zirāʿah (1)
[7] 選択	xiyār (1)	xiyār (0)	xiyār (2)
	ixtiyār (2)	ixtiyār (4)	ixtiyār (2)

8) sanawāt は sanah の、ʾaʿwām は ʿām の複数形である。ʾaʿwām は全く発見されなかったが、sanawāt との対比のため示した。

〈Table-3: ② 形容詞〉

	チュニジア	エジプト	シリア
〔8〕 重要な	hāmm (3)	muhimm (9)	hāmm (4)
〔9〕 地方の	maḥalliy (1) jihawiy (8)	maḥalliy (9) jihawiy (0)	maḥalliy (3) jihawiy (0)
〔10〕 現在の	jārin (2) ḥāliy (1)	jārin (0) ḥāliy (13)	jārin (13) ḥāliy (0)
〔11〕 次の	qādim (2) muqbil (0)	qādim (0) muqbil (13)	qādim (2) muqbil (2)

〈Table-4: ③ 動 詞〉

	チュニジア	エジプト	シリア
〔12〕 ~に苦しむ	該当語発見できず	‘ānā (4)	‘ānā min (6)

エジプトとシリアでは、動詞の後ろに前置詞 min を伴うか否か、の点に違いが見られた。

〈Table-5: ④ 時に関連する表現〉

	チュニジア	エジプト	シリア
〔13〕 すぐ後に	’iṭra (2)	‘aqiba (11)	’iṭra (2)
〔14〕 同時に	fī nafsi al-waḡti (2)	fī al-waḡti nafsi-hī (3)	fī nafsi al-waḡti (1)

本節では語彙を中心に焦点を当てて比較した。発見数は少数ではあるが、使用単語が大きく異なった事例も多数存在する。もちろん同じ意味を示している場合でも、文脈や筆者の好みなど、様々な要因が考えられるが、全体としてはやはり国ごとの語彙の使用傾向があると考えられる。

また、〔12〕に見られるような、動詞に前置詞が付くかどうかという差は、様々な動詞を調べていくことで、今後も地域的差異が発見される可能性のある項目である⁹⁾。今後もコーパスを拡大し、様々な事例の発見、また、既に発見できた事例に関しては、より多くのデータの提示を目指す。

6. 形 態

アラビア語には2つ以上の複数形を持つ語が存在する。その中でどの複数形を用いるかという傾向を比較した。

〈Table-6: ⑤ 同じ語で、地域ごとに違う意味を表す語〉

	チュニジア	エジプト	シリア
〔15〕 mašrū‘	計画 (1)	計画 (15)	計画 (9)
	草案 (4)	草案 (5)	草案 (2)

9) 同様のことは Ennaji (1988: 17) においても指摘されている。

6.1. 複数形選択

用例数は少ないが、複数形の選択には偏りが存在する「可能性」は指摘することができる。ただし、「規則複数」、「不規則複数」のどちらかを好む、といったような全体的な傾向は存在せず、単に単語ごとに、使用する複数形が異なっているだけであると推察される。

〈Table-7: 複数形選択〉

	チュニジア	エジプト	シリア
[16] mawḍūʿ の複数形	mawāḍīʿ (1) mawḍūʿāt (0)	mawāḍīʿ (0) mawḍūʿāt (2)	mawāḍīʿ (0) mawḍūʿāt (2)
[17] naṣāʾ の複数形	ʾanṣiṭah (0) naṣāʾāt (2)	ʾanṣiṭah (2) naṣāʾāt (0)	ʾanṣiṭah (1) naṣāʾāt (1)

7. 統語

7.1. 文の種類

アラビア語には「動詞文」(文章中に動詞が含まれている)と「等式文」¹⁰⁾(文章中に動詞が含まれていない)の2つの文の形式が存在する。

〈Table-8: 文の種類〉

	チュニジア	エジプト	シリア
総文章数	169文	396文	326文
動詞文の割合	90%	98.7%	94.5%
等式文の割合	10%	1.2%	5.5%
	100%	100%	100%

対象としたコーパスにおいて、これらの使用の頻度に地域的差異が見られないかを検証した。3カ国ともほぼ動詞文で構成されているが、チュニジアでは他の2国より等式文が用いられる割合が高い。

7.2. 語順

口語アラビア語では ʾirāb (格を示す語末変化)の消失に伴って、動詞文の語順が SVO にほぼ限定されている。この影響を受けて、地域ごとに語順 SVO の出現頻度に差が存在するのではないかと考え、検証を行った。

〈Table-9: 語順〉

	チュニジア	エジプト	シリア
SVO 文の割合	11.8%	0.5%	7.9%

エジプトでは、ほぼ全ての文が VSO の語順で記述される。全体的に、語順が SVO になる割合は低い、チュニジアでは11.8%存在した。

7.1. 及び 7.2. では文の種類と語順に見られる地域的差異を考察した。限られた統語的特徴しか分析できていないが、使用文体の差や、SVO 文の割合等、地域的差異の存在する可能性を示唆していると考えられる。

10) Equational Sentence と呼ばれる。AB と単語を並べて、「A は B である」という意味を表す文。

8. まとめ

本稿では、前述したように、非常に限定されたコーパスを用いて現代標準アラビア語の地域的差異について考察してきた。しかしこのような限られたコーパスの中でも、語彙の使用傾向を中心として、形態・統語的特徴に地域的差異の存在を確認することができた。まだコーパスが小さく、十分な事例は提示できていないが、使用状況の地域的な偏りは、現代標準アラビア語が広いアラブ地域において確かに変容を経つつある可能性を示唆するものであろう。

今後は、比較項目の増加、対象コーパスの拡充、コンピュータの利用等、より効率的な方法を採用することにより、多くの地域的差異を発見することが可能となる。そしてこれらの事例を整理していくことで、現代標準アラビア語の実態を探る上での大きな手がかりを与えることができると考えられる。

[転写方式]

(ي و ه ن م ل ك ق ف غ ع ظ ط ض ص ش س ز ر ذ د خ ح ث ت ب ء)
(, b t t j h x d d r z s š ş d t z ʿ g f q k l m n h w y)

[参考文献]

- 池田修 (1968) 「9世紀以前のアラビア語の研究」『オリエント』第11巻第3-4号, 121-199.
 松田伊作 (1988) 「アラビア語」河野六郎他編『言語学大辞典』第1巻, 三省堂, 462-472.
 中野暁雄 (1988) 「アラビア語諸方言」河野六郎他編『言語学大辞典』第1巻, 三省堂, 472-483.
 榮谷温子 (1997) 「アラビア語ダイグロシア研究の現状」『日本中東学会年報』第12号, 329-363.
 真田信治他 (1992) 『社会言語学』桜楓社.
 牧野信也 (1979) 『アラブ的思考様式』講談社.
 ルイ・ジャン・カルヴェ著、萩尾生訳 (2002) 『社会言語学』白水社.
- Chejne, Anwar G. (1969) *The Arabic Language: Its Role in History*. University of Minnesota Press, Minneapolis.
 El-Ezabi, Yehia A. (1967) "The Sectors of Written Arabic". In Edward L. Jr. Blansitt (ed.) *Report of the Eighteenth Annual Round Table Meeting on Linguistics*. Washington DC, 175-180.
 Ennaji, M. (1988) "Language planning in Morocco and changes in Arabic". *International Journal of the Sociology of Language* 74, 9-39.
 ——— (1995) "A Syntactico-semantic Study of the Language of News in Morocco". *International Journal of the Sociology of Language* 112, 97-111.
 Ferguson, Ch. A. (1959) "Diglossia". *Word* 15, London, 325-340.
 ——— (1959) "The Arabic Koine". *Language* 35, 616-630.
 Stetkevych, J. (1970) *The Modern Arabic Literary Language: Lexical and Stylistic Developments*. University of Chicago Press, Chicago.

Van Mol, M. (2003) *Variation in Modern Standard Arabic in Radio News Broadcasts: A Synchronic Descriptive Investigation in the Use of Complementary Particles*. Peeters, Leuven.

【対象テキスト】

エジプト紙 Al-Ahrām 2003/5/6, 5/7, 5/11, 5/12, 5/13, 5/14, 5/15

第1面 [語数] 約13200語

シリア紙 Al-Baṣī 2003/5/5, 5/6, 5/7, 5/8, 5/11, 5/12, 5/13, 5/14

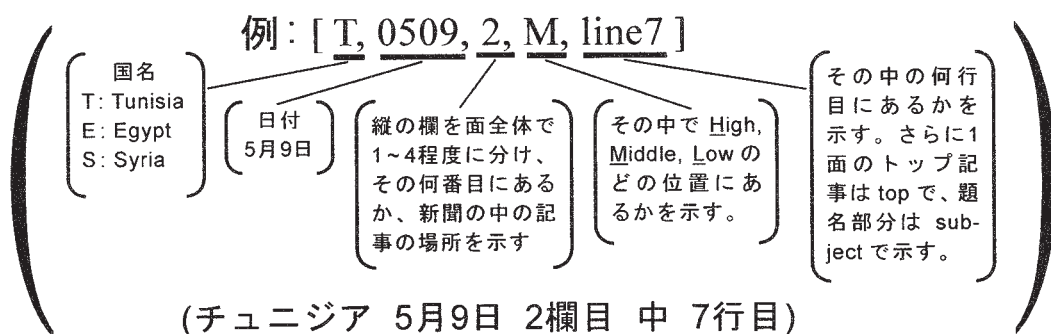
第1面 [語数] 約16900語

チュニジア紙 Al-Ṣabāḥ 2003/5/6, 5/7, 5/8, 5/9, 5/10, 5/11, 5/13, 5/14, 5/15

第1面 [語数] 約10500語

【資料】

表中の項目について、各国から1例ずつを用例として記載した。全ての例文の [] 内は、以下のように記載する。



○ 名 詞

1. 可能性

- (1) [T, 0511, 2, M, line2] (ʾimkāniyah)
tafāʾulun kabīrun bi-ʾimkāniyati taḥqīqi natāʾiji...
成果実現の可能性に対する大きな楽観視。
- (2) [E, 0511, 3, L, line6] (ʾimkān)
li-dirāsati ʾimkāni al-samāḥi bi-istīrādi al-luḥūmi.
食肉輸入認可の可能性を検討するため。
- (3) [S, 0506, 1, M, line3] (ʾimkāniyah)
tudrasu ʾimkāniyatu ʾirsāli qūwāti hifzi al-salāmi.
平和維持軍を派遣するかどうかを検討されている。

2. 銀行

- (4) [T, 0506, 3, H, line3] (bank) (* 複数形は bunūk)
yaḥtafiẓu bi-ʾamwālīn ṭāʾilatin fī bunūki-hā. 彼はその銀行に巨額の貯金をしている。

- (5) [E, 0506, 2, L, line6] (bank)
irtifā‘u mawārīdi al-bunūki min al-‘umlāti al-‘ajnabīyati… 銀行の外貨収入の増加…。
- (6) [S, 0511, 2, M, subject] (maṣārif) (* 複数形は maṣārīf)
ijtimā‘u ‘amalin bi-rī‘āsati ra’īsi majlisi al-wuzarā’i ḥawla al-maṣārifi al-‘ammati.
首相を議長とする公営銀行についての作業会議

3. 協 議

- (7) [E, 0513, 1, M, subject] (muṣāwarah)
al-muṣāwaratu al-‘arabīyatu — al-‘amrīkiyatu ḥawla ra’i al-‘uqūbāti ‘an al-‘irāqi.
対イラク制裁解除に関するアラブとアメリカの協議
- (8) [S, 0507, 2, M, line1] (taṣāwur)
fi ‘iṭāri al-taṣāwuri wa-tabāduli al-ra’yi bayna sūriyā wa faransā…
シリア・フランス間の協議および意見交換の枠組みの中で…。

4. 石 油

- (9) [T, 0509, 2, M, line16] (naft)
li-tahrībi al-nafti al-‘irāqīyi xilāla fatrati niẓāmi ṣaddām ḥusayn…
サダム・フセイン政権時代におけるイラクの石油密輸のために…。
- (10) [E, 0511, 3, M, line3] (bitrūl)
… fi qitā‘ati al-ṣinā‘ati wa al-bitrūli wa al-siyāḥati.
工業部門、石油部門、観光部門において…。
- (11) [S, 0505, 1-2, L, line16] (naft)
wa ṣa‘ida ṭalāṭatu ‘aṭibbā’a min al-‘iqlimi ‘ilā nāqilati nafti.
そしてその地方の出身の医師3名が石油タンカーに乗った。

5. 年

- (12) [T, 0513, 1, H, line1] (sanah)
li-al-falāḥi al-‘arabīyi min al-darajati al-mumtāzati li-sanati 2003…
2003年、最高レベルに位置するアラブの繁栄のため…。
- (13) [E, 0515, 2, L, line5] (‘ām)
… wa ‘anna ḥādihī al-nisbata tabluḡu 33.6% muqāranatan bi-ṣāhri ‘abrīla min ‘āmi
2000, … …そして、この割合が2000年4月比で33.6%に達するということ…。
- (14) [S, 0510, 1, M, line10] (‘ām)
li-ḥamlati ‘i‘ādati intixābi-hī li-rī‘āsati al-bayti al-abyaḍi fi ‘āmi 2003.
米大統領選に向けた、2003年の彼の再選キャンペーンのため。

6. 農 業

- (15) [T, 0513, 1, H, line1] (filāḥah)
iḥtifālān bi-al-yawmi al-waṭaniyi li-al-filāḥati… 農業記念日を祝って…。
- (16) [E, 0515, 1, L, line6] (zirā‘ah)
sa-yuḥjimu al-kaṭīrūna ‘an zirā‘ati al-quṭuni.
多くの人々は、綿栽培を控えるであろう。
- (17) [S, 0513, 2, M, line8] (zirā‘ah)
wizārātu al-iqtisādi wa-al-xārijīyati wa-al-zirā‘ati. 経済省、外務省、農業省

7. 選 択

(18) [T, 0506, 3, L, line8] (xiyār)

tatamattalu fī-mā yusammā bi-«al-xiyāri al-ʿurdunnīyi».

「ヨルダンの選択」と呼ばれるものに象徴される。

(19) [E, 0512, top, line16] (ixtiyār)

ʾafḍalu al-ixtiyārāti bi-al-nisbati li-al-šarīki al-ʾajnabīyi.

その海外パートナーにとって最も望ましい選択

(20) [S, 0507, 1, M, line16] (ixtiyār)

ixtiyāru ḥukūmati-hī bi-milʾi ʾirādati-hī 完全に自分の意思で自らの政府を選ぶこと

○ 形容詞

8. 重要な

(21) [T, 0508, 2, L, subject] (hāmm)

kammīyātun hāmmatun min al-mutafajjirāti wa al-ḡaxīrati… 相当量の爆発物と弾薬が…。

(22) [E, 0512, 2, L, line4] (muḥimm)

tujrā ʾarbaʿu mubārayātīn muḥimmatīn… 重要な試合が4試合行われる。

(23) [S, 0506, 1, H, line15] (hāmm)

muḥāḍaṭatu al-sayyidi bāwil fī dimašqa kānat hāmmatan.

ダマスカスでのパウエル氏の会談は重要であった。

9. 地方の

(24) [T, 0511, 1, H, subject] (jihawīy)

20 maḥaṭṭatan tarbiṭu al-mustašfayāti al-jihawīyata wa al-maḥallīyata.

20の拠点が地方の諸病院を結んでいる。

(25) [E, 0512, top] (maḥallīy)

yuhaddidu fī-hā al-tamwīla al-maḥallīya al-mudraja bi-al-xuṭṭati.

そこでは、その計画に含まれる地方の財政管理を制限している。

(26) [S, 0508, 2, H, line5] (maḥallīy)

al-majlisu al-maḥallīyu alladī šukkila li-al-madinati. その都市に組織された地方議会

10. 現在の

(27) [T, 0508, 2, H, line1] (jārin)

al-tārīxu al-tānī min māy al-jārī… 今年の5月2日という日付は…

(28) [E, 0507, 2-4, M, line8] (ḥālīy)

taškīlu ḥukūmatīn intiqāliyyatīn fī al-ʿirāqi fī muntaṣafī al-šahri al-ḥālīyi.

今月中旬におけるイラクでの移行政府の成立

(29) [S, 0506, 1, M, line18] (jārin)

sa-yuṣakkilūna al-ḥukūmata al-intiqāliyyata fī al-ʿirāqi fī muntaṣafī al-šahri al-jārī.

彼らは今月中旬、イラクに移行政府を成立させるだろう。

11. 次 の

(30) [T, 0515, 2, H, line6] (qādim)

bi-ʾiḍādi mašārīʿi lawāʾiḥi al-muʾtamari al-qādimi. 次回会議の議案の準備

(31) [E, 0515, 3, H, line8] (muqbil)

ma'a 'aril šārūn ra'isi al-wuzarā'i al-'isrā'īliyi fī al-'usbū'i al-muqbili...

来週イスラエルのアリエル・シャロン首相と…。

(32) [S, 0506, 1, M, line28] (qādim)

wuṣūlu-hū 'ilā al-'irāqi al-'usbū'a al-qādima... 来週の彼のイラク到着が…。

○ 動 詞

12. ~に苦しむ

(33) [E, 0512, 3, M, line10] ('ānā)

al-iqtisādu al-'arabiyyu yu'ānī al-rukūda... アラブ経済は不景気に苦しんでいる。

(34) [S, 0507, 3, L, line4] ('ānā min)

fī al-duwali allatī tu'ānī min 'ātāri-hī... その影響に苦しんでいる国々では…。

○ 時に関連する表現

13. すぐ後に

(35) [T, 0513, 2, H, line2] ('iṭra)

'akkada al-sayyidu xātim... 'iṭra tawqī'i ittifaqīyati šarākatīn...

ハーティム氏は…、連携協定に署名した直後、…と強調した。

(36) [E, 0507, top, line10] ('aqiba)

šarraḥa al-duktūru ḥusayn... — 'aqiba al-liqā'i — bi-'anna...

フセイン博士は、一会見の直後に一以下のことを明らかにした。

(37) [S, 0513, 3, M, line11] ('iṭra)

juriḥa talātatu filasṭīniyyīna 'iṭra tabādulin 'anīfin li-'iṭlāqi al-nāri...

3人のパレスチナ人が激しい銃撃戦の直後に負傷した。

14. 同時に

(38) [T, 0513, 2, M, line5] (fī nafsi al-waḡti)

... fī nafsi al-waḡti allaḡi imtadaḡat fī-hi faransā フランスを讃えたのと同時に…。

(39) [E, 0507, 2, M, line12] (fī al-waḡti nafsi-hī)

fī al-waḡti nafsi-hī, ḡakarat mašādiru al-'idārati al-'amrīkiyati...

同時に、アメリカ当局筋は…と述べた。

(40) [S, 0507, 1, H, line13] (fī nafsi al-waḡti)

... wa-'annahū fī nafsi al-waḡti allaḡi... そしてそれは…と同時のことである。

○ 同じ語で、地域ごとに違う意味を表す語

15. mašrū'

(41) [T, 0507, 1, M, subject] (草案)

majlisu al-nuwwābi yuṣādiḡu fī qirā'atin ṭāniyatin 'alā mašrū'i al-qānūni al-dustūriyi...

下院は第2読会においてその憲法草案を採択する。

(42) [E, 0512, top, subject] (計画)

taqrīrun ḡawla mašrū'i damji šarikāti al-naqli al-baḡriyi...

それらの海上輸送会社の合併計画に関する報告

(43) [S, 0511, 1, M, line34] (計画)

inqisāmun wāḍiḥun ḥiyāla mašrūʿi al-qarāri al-ʿamrīkiyi.

アメリカの決議案に対する明らかな分裂

○ 複数形選択

16. mawḍūʿ の複数形

(44) [T, 0510, 1-2, line1] (mawāḍiʿ)

min al-muntaẓari ʾan yastaʿida fī xiṭābi-hī al-mawāḍiʿa….

彼が演説の中で、それらの問題を再び取り上げることが期待されている。

(45) [E, 0514, 3, H, line2] (mawḍūʿāt)

tanāwala al-waḍʿa al-ʿarabiya wa ʿadadan min al-mawḍūʿāti al-muhimmati….

彼はアラブの情勢と多くの重要な問題を扱った。

(46) [S, 0506, 3, M, line8] (mawḍūʿāt)

istaʿraḍa majlisu al-wuzarāʾi al-qaḍāyā wa al-mawḍūʿāti….

内閣は諸問題について検討した。

17. naṣāṭ の複数形

(47) [T, 0511, 1, H, line5] (naṣāṭāt)

al-naṣāṭātu allatī sa-yaqāʿu al-tarkīzu ʿalay-hā. 重点が置かれるであろう諸活動

(48) [E, 0506, 3, M, line2] (ʾanṣiṭah)

al-ʾanṣiṭatu al-ʾinsāniyatu wa al-ijtimāʿiyatu. 人道的、社会的活動

(49) [S, 0511, 2-3, M, line5] (naṣāṭāt)

wa istaʿraḍat al-qiyādatu al-naṣāṭāti al-siyāsiyata al-wāsiʿata….

指導部は広範な政治活動を検討した。